

2026年3月期

決 | 算 | 説 | 明 | 資 | 料

朝日印刷株式会社

証券コード：3951

2026年5月11日



目次

- 1 — 朝日印刷について
- 2 — 2026年3月期 決算概要
- 3 — 2027年3月期 業績予想

— 1 —

朝日印刷について



商号	朝日印刷株式会社
所在地	富山県富山市
創業	1872年（明治5年）
設立	1946年5月（昭和21年）
上場市場	東証スタンダード（証券コード：3951）
資本金	2,228百万円
従業員数	1,760名（2026年3月現在）



朝日印刷グループの経営理念

**お客様本位を基本とし、
企業の永続成長と従業員の幸福とが一致する経営を目指します。**

朝日印刷グループの使命と目指す姿

Mission

包むところを大切にし、安心・安全と美を追求した商品・サービスを提供することで社会に貢献します。

Vision

包装の価値創出企業として、日本と世界へ新しい包装文化を発信します。
朝日印刷グループで働く世界中のだれもの子供や孫の世代が「入社したい」と思うような会社を目指します。

Core Value

易きにつかず、難しい道こそ朝日の生きる(生きる)道

Value

私たちは5つの行動指針の元に、社会・お客様へ対して価値創出とミッションを果たします。

印刷包材事業を中心に3つの事業を展開

印刷包材事業

当社グループの主力事業
医薬品市場、化粧品市場向け製品の
製造・販売など

【医薬品パッケージ】



一般用医薬品



医療用医薬品

【化粧品パッケージ】



9.3% 1.1%

売上高構成比
(2026年3月期)

89.6%

包材システム販売事業

包装設備の販売事業
包装の前後工程の機械を含む
トータルな提案での販売

【導入実績】



CAP HOLDING TRAY

人材派遣事業

地元企業への職業紹介・労働派遣事業

Asahi Jinzai Service

▶グループ会社 朝日人材サービス株式会社

高い参入障壁と安定した生産体制により優位性を確立

高い参入障壁

医薬品の一部として人命に関わる

- 法律等の厳しい規制
 - 薬機法やGMP省令に準拠した製造
 - 徹底した品質管理体制と品質保証体制
- 安定供給体制の構築
 - 医薬品の供給をストップさせない体制



医薬品
包材

高加飾で意匠性の高い包装物

- 高度な印刷・加工技術
- 色の再現性、正確性



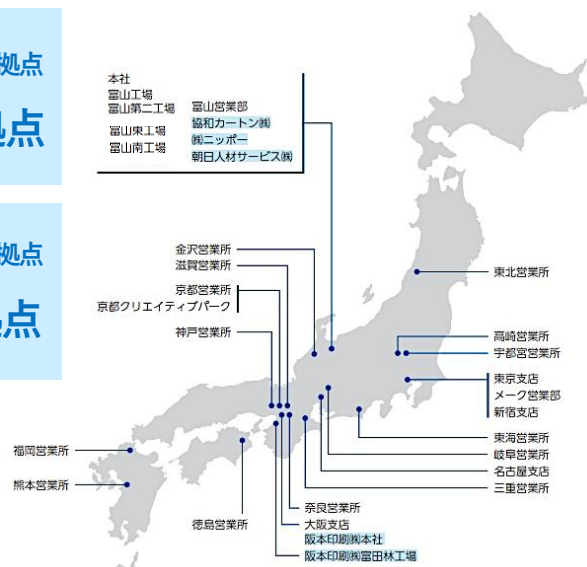
化粧品
包材

業界トップの生産体制

- 製造拠点の分散により安定供給が可能
- グループ会社の製造拠点も活かした業界トップの製造キャパシティ
- お客様に寄り添った営業活動や迅速な対応が可能な営業・販売体制

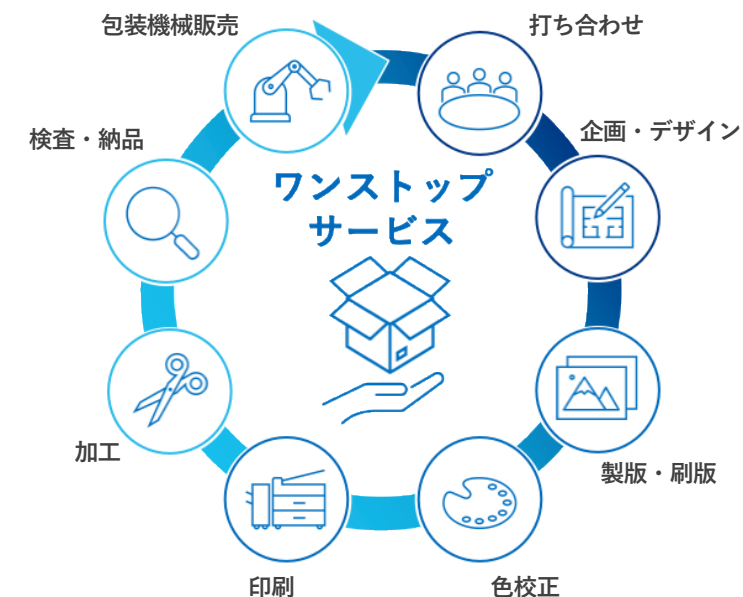
国内販売拠点
20拠点

国内製造拠点
5拠点



ワンストップサービス

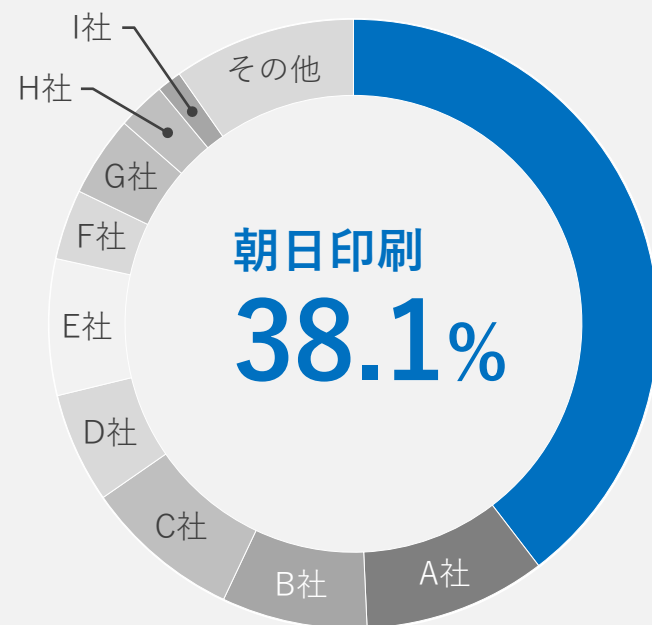
- 医薬品・化粧品包材の設計・デザインから製造・包装まで自社グループで効率的に提供可能



医薬品と化粧品の市場で国内トップシェアを誇る

- 偏りのない数多くの得意先との取引（トップの得意先で売上の3%程度）
- 全国20拠点の販売網による地域密着型の提案型営業

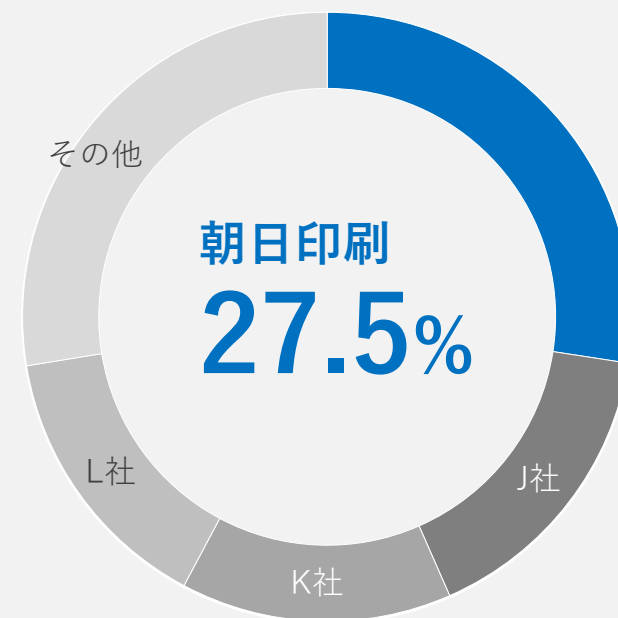
医薬品市場 向け印刷包材 ※



国内シェア
No.1

※自社調べ

化粧品市場 向け印刷包材 ※



国内シェア
No.1

※自社調べ

— 2 —

2026年3月期
決算概要



原材料価格の高騰、海外事業のマイナスなどにより、増収減益で着地

(百万円)	25年3月期	26年3月期	前期比	前期差	計画比	計画差
売上高	43,945	44,642	+1.6%	697	99.2%	▲358
営業利益	2,076	1,623	▲21.8%	▲452	72.2%	▲627
経常利益	2,165	1,897	▲12.3%	▲267	84.0%	▲363
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,704	1,592	▲6.6%	▲112	88.5%	▲208
1株当たり 当期純利益 (円)	80.23	75.76	▲5.6%	▲4.47	89.4%	▲9
1株当たり配当金	年間38円	年間38円 (中間18円+期末20円)				

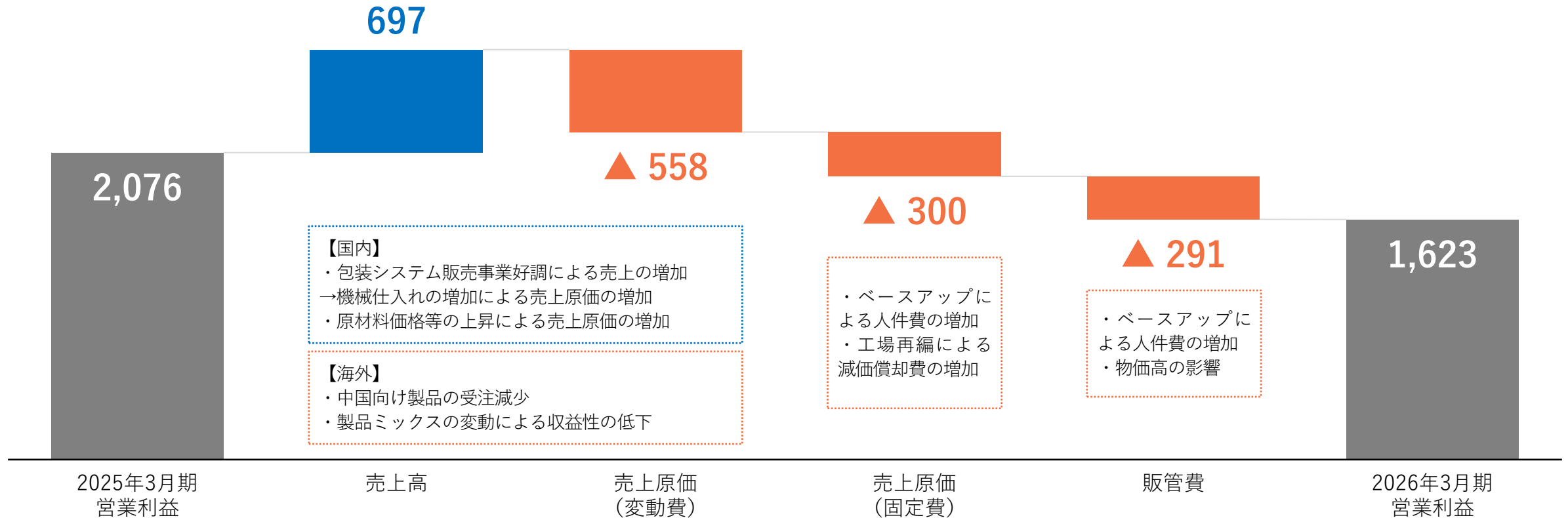
増収要因 包装システム販売事業の好調により増収

減益要因 原材料価格の高騰や物価高の影響に加え、海外において印刷包材事業の受注が減少したことなどにより減益

当期純利益について 政策保有株式の縮減による、特別利益の計上

原材料価格等の上昇、製造・販売固定費の増加に伴い減益

(百万円)



国内は売上高・利益ともに横ばいも、国外が減収減益

(百万円)	25年3月期	26年3月期	前期比	前期差
売上高	40,260	39,995	▲0.7%	▲264
セグメント利益	9,256	8,909	▲3.7%	▲346

国内

- 医薬品向け製品、化粧品向け製品ともに堅調な受注推移となり、売上高は横ばい
- 原材料をはじめとする仕入価格の上昇に加え、賃上げや工場再編に伴う減価償却費の増加等により固定費が上昇するも、生産性向上の取り組みを推進した結果利益も横ばい

原材料価格等の高騰に伴う価格改定の交渉を継続推進

国外

- インドネシア向け製品の好調
- 前期好調であった中国向け製品の受注が低調に推移し回復に至らなかったこと等に伴う、製品ミックスの変動により減収減益

日本と連携した営業活動およびマレーシア国外への拡販を継続強化、新工場稼働に向け、生産・営業体制の強化を推進

売上高、セグメント利益ともに前期比大幅増

(百万円)	25年3月期	26年3月期	前期比	前期差
売上高	3,155	4,147	+31.4%	992
セグメント利益	506	690	+36.3%	184

- 包装機械の提案に加え、前工程・後工程も含めたトータル提案が奏功し大型案件の受注が増加
- 省人化・省力化ニーズの高まりを背景とした好調な受注推移により、前期を大きく上回る増収増益



印刷包材事業に次ぐ第2の事業としてより一層の成長を見込む

売上高は微減も、利益率が伸長し増益

(百万円)	25年3月期	26年3月期	前期比	前期差
売上高	529	499	▲5.7%	▲30
セグメント利益	130	131	+0.9%	+1

- 派遣稼働人数が減少した一方で、派遣単価改定の寄与により、減収増益



当社グループの強化や地元企業への貢献を目指す

借入金返済による現預金の減少、設備投資による固定資産の増加

(百万円)

■ 資産	25年3月期	26年3月期	前期末比
流動資産	29,578	26,303	▲3,275
現預金	10,271	6,927	▲3,344
売上債権	14,905	14,433	▲472
棚卸資産	3,520	3,847	+327
固定資産	40,884	42,872	+1,987
有形固定資産	32,447	33,496	+1,049
無形固定資産	2,420	2,443	+22
投資その他資産	6,017	6,932	+915
資産合計	70,462	69,175	▲1,287

■ 負債	25年3月期	26年3月期	前期末比
流動負債	14,419	14,246	▲172
仕入債務	7,062	5,537	▲1,524
短期有利子負債	3,915	4,524	+608
固定負債	20,471	18,194	▲2,277
長期有利子負債	17,619	15,708	▲1,910
負債合計	34,890	32,440	▲2,450

■ 純資産	25年3月期	26年3月期	前期末比
純資産合計	35,572	36,735	+1,163

自己資本比率	48.6%	51.5%	+2.9pt
---------------	--------------	--------------	---------------

AX2024 (23/3期～25/3期)	重点施策	市場深耕 拡大	付加価値 最大化	ワーク エンゲージメント	海外事業 推進	経営資源 活用
	評価	○	△	△	◎	△

※振り返りの詳細は2025年3月期決算説明資料に掲載

各施策において課題やさらなる取り組み余地が存在したため、**中計期間を1年延長**

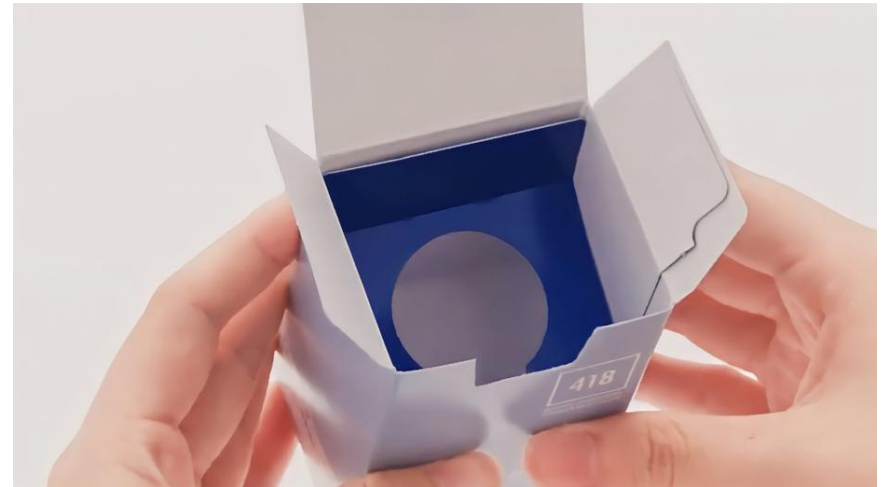
AX2024+1 (26/3期)	重点施策	収益構造改革	環境課題への対応	体制の整備
	主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ● 戦略機として高機能印刷機導入 ● 国内包材メーカー初のPSO認証取得 ● 海外新工場の建設 ● SBT認定コミットメントレター提出 		

収益性の向上に向けた基盤を整備し「**中期経営計画2030**」へ

— 3 —

2027年3月期

業績予想



収益性の改善等により増収・増益を計画

(百万円)	26年3月期	27年3月期	前期比	前期差
売上高	44,642	47,000	+5.3%	+2,357
営業利益	1,623	1,940	+19.5%	+316
経常利益	1,897	2,060	+8.5%	+162
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,592	1,670	+4.9%	+77
1株当たり 当期純利益 (円)	75.76	79.45	+4.9%	+3.69

【主な増減要因（+）】

- 国内印刷包材事業における価格改定効果による増収
- 海外印刷包材事業における新工場稼働等による売上拡大
- 生産性向上による製造原価の低減

【主な増減要因（-）】

- 原材料価格等の上昇による製造原価の増加
- ベースアップおよび物価上昇に伴う固定費の増加
- 海外印刷包材事業における新工場に係る減価償却費の増加

配当方針

2027年3月期より、配当方針を以下の通り変更。

従来

- 安定的な配当の継続と業績に応じた成果の配分
- 連結配当性向「40%」以上の配当を実施



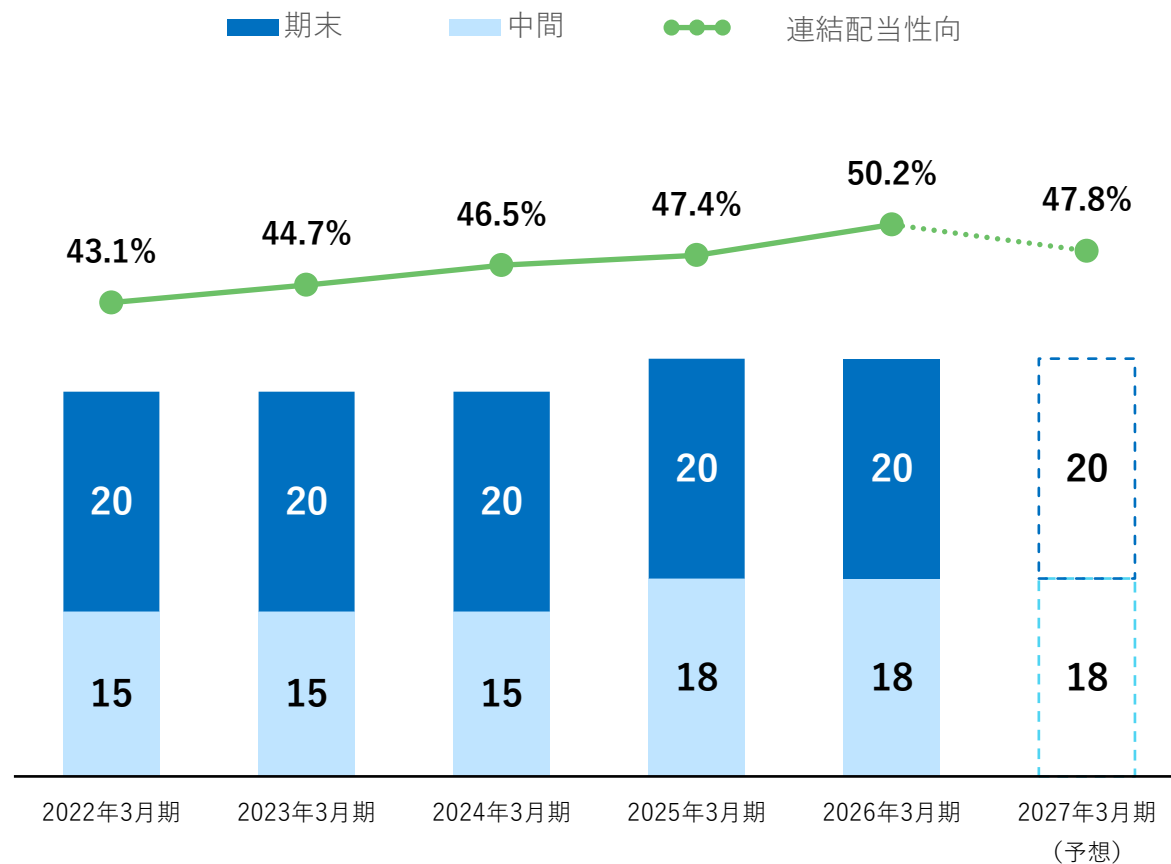
2027年3月期以降

「累進配当」と「DOE(連結純資産配当率)」に基づく配当

- 原則として減配せず、配当の維持もしくは増配
- DOE2.4%を目途に配当

+機動的な自社株買いも継続的に実施

1株当たりの配当金額推移 (円、%)





ASAHI PRINTING CO., LTD.

新たな
パッケージングソリューション企業へ

長期ビジョン「ASAHI2035」 中期経営計画2030

朝日印刷株式会社
証券コード：3951
2026年5月11日

長期ビジョン『ASAHI2035』

2026年5月、10年後の2035年に向けた長期ビジョン「ASAHI2035」を制定。
培ってきた事業・強みを土台とし、「新たなパッケージングソリューション企業」として成長を続ける。

包むところで 社会を豊かに 未来を明るく
～新たなパッケージングソリューション企業へ～



朝日印刷は、医薬品・化粧品の包材を通じて人々の安心・安全を支えてきた「包むところ」を原点到、すべてのステークホルダーの安心で快適な暮らしの実現に貢献してまいります。

長年培ってきた包材事業／包装システム事業をベースに、「新たなパッケージングソリューション企業」へと進化すべく、環境対応・DX推進・ビジネスモデル革新を総合的に推進します。変化の激しい外部環境に対応しながら、社会課題の解決と新たな事業機会の創出により、持続可能な成長を実現します。

Copyright 2026 Asahi Printing Co., Ltd. All Rights Reserved. 11

IRニュースはこちら



<https://www.asahi-pp.co.jp/news/>

